

歴史教育における市民性の育成

— 附属新潟中学校における実践事例 —

Citizenship Education in History Teaching

— on the case of the lesson in Niigata junior highschool attached to Niigata University —

児 玉 康 弘

Yasuhiro KODAMA

I. はじめに

本稿の目的は、歴史教育において、東日本大震災に関連した市民的行動のあり方を反省的に考察させるための教材を開発し、その効果を附属学校において実験・実証的に確かめることである。周知の如く、東日本大震災・巨大津波・原発事故に際しての日本における人々の行動は、パニックや暴動など社会秩序の崩壊をもたらすことのない冷静なものであったとして国際的に評価された。しかしながら、震災直後においては、買い占めによって小売店の店頭から食料や飲料水が消えていくという現象も見られた。それは、生徒たち自身にも地域のスーパーマーケットやコンビニで目撃されたり、体験された身近な事柄であった。そうした生徒自身の現代の体験をそのままにせず、歴史的類似現象と比較して、危機における社会と人々のあり方を考察させることは、歴史教育の有用性を高めることになるのではなかろうか。本研究では、かかる問題意識に基づいて、2つの類似した社会現象、すなわち1918年の米騒動と、1973年から1974年にかけての狂乱物価・トイレットペーパー・パニック、及び自分たちの体験した東日本大震災での食料・飲料水の買い占めという社会現象を比較させる指導計画を作成し、附属新潟中学校で実験授業を行い、生徒たちの認識や考え方の変容を感想文に基づいて分析していく。

II. 指導計画の概要

(1) 授業の目標

歴史授業の教育目標については、実在論的な知識論に基づいて生徒の社会認識体制の成長を目指す立場と、言語論的転回の影響を受け、唯名論的な知識論に基づく歴史構成主義の立場から生徒の社会批判・社会形成能力を高めようとする立場がある¹⁾。本研究は、基本的には前者の立場をとり、米騒動や石油ショック後の狂乱物価といった過去の歴史事象に関する生徒たちの見方・考え方を、大衆心理といった新しい観点から考察させたり、複数の事象の原因を比較考察させたりすることによって深めていくことをねらいとする。ただし、次の2点に関連した留意事項について補足的に論じておきたい。

第1点は、歴史構成主義に対する本研究のスタンスである。本研究は、言語を媒介とする人々の意識や観念が現実世界を構成する側面があるとする言語論的転回の立場を否定するものではない。具体的に言えば、

米騒動に際して、後述の鈴木商店が攻撃された時、そこには鈴木＝米の買い占め＝米価騰貴の元凶という人々の観念が構築され、神戸における暴動や焼き討ち事件という社会的現実が構成されたことを理解させることを目標としているからである。しかしながら、一般に歴史構成主義的な教育論は、かかる現実社会の構成のからくりを批判的に見抜く力の育成だけでなく、ではよりよい新たな社会の構成はいかにあるべきかという意見や態度形成をも授業の直性的目標として取り込もうとする。社会が人々の意識や観念、それを媒介する言語によって構成されたものであるならば、生徒たちにもそうさせなければならないと考えるのである。いわば言語ゲームのプレーヤーとなるための訓練を施そうとしている。しかしながら教室で提案されたり形成されたりするであろう新しい社会のあり方は、机上の仮説にとどまり、現実には検証されざるものとなることが多いため、その学習は残念ながら不毛なものとなろう。したがって、本研究では、構成主義はあくまで生徒の社会認識体制の成長のための方法の一部として捉えていく。

第2点は、実在論的な知識論と市民的資質育成の関連性である。歴史教育の目標に関する上記2つの立場は、後者の方が、社会形成という目標を直接的に取り込もうとしている点において、市民性育成のための社会科教育としての性格を明示しているだろう。しかし、豊かな事実認識そのものが、生徒の社会に対する関心や、社会のあり方をより真剣に考えようとする資質を涵養することもあるのではないか。その意味で本実践では、米騒動や狂乱物価に対する新たな認識形成が、近似の自己体験と比較可能であるがゆえに、生徒自身の社会に向き合う姿勢や考え方に何らかの影響、ある意味での市民としての自覚をもたらしすのではないかという仮説に基づき、それを検証していくこととしたい。

(2) 授業の内容構成

実在論的な知識論に基づいて生徒の社会認識体制を成長させるために、本授業では以下のような層構造を成す教育内容を準備する²⁾。基層を成すものが個別的・記述的知識であり、米騒動、石油ショック後の狂乱物価、東日本大震災のいずれにおいても、人々が食料などの物資を買い占めたという社会現象を叙述するための知識である。第2の層は、ではなぜそれぞれの事象において人々が食料を買い占めたのかと言うことに関する個別的・説明的知識（解釈）である。この説明は、第3の層である一般的・説明的知識を仮説として設定することによって演繹的に為される。それは、「社会不安が高まると、人々は買い占めなどの過剰な自己防衛に走る傾向がある」というような知識に基づく演繹的説明である。

同様に、本授業では、米騒動、狂乱物価、東日本大震災という社会不安に際して、人々がそれぞれ、鈴木商店、田中角栄、民主党政権と東電といった特定の対象を攻撃したことに関する個別的・記述的知識を基層の知識として教育内容とする。では、なぜ人々がそれらを攻撃したのかについての解釈を個別的・説明的知識として扱う。そのために、一般的・説明的知識として、「危機に際し、人々は不安や不満のはけ口を、特定の対象に求めて過剰に攻撃することによって、自分たちの不安や不満を緩和したり忘却したりしようとする傾向がある（抑圧移譲）」という知識を用意し、演繹的説明が為される。

さらに、本授業においては、米騒動における鈴木商店の攻撃、狂乱物価に際しての田中角栄への攻撃、東日本大震災での民主党政権・東電への批判において、それぞれ、大阪朝日新聞、文藝春秋誌、テレビや新聞といったマスメディアが一定の役割を果たしていることに関連する個別的・記述的知識を取り上げる。では、なぜ人々がそれぞれの場面においてマスメディアの影響を受けたのかという解釈を、個別的・説明的知識として扱う。そのために、一般的・説明的知識として「社会不安が高まると、人々の心理はマスメディア（多数派や権威があるとみなされるもの）の報道や主張に依存しやすくなる傾向がある（宣伝効果と自由からの逃走）」という知識を用意され、演繹的説明が為される。

以上のような3事例に関する3種・3層の知識構造が、本授業における基本的な教育内容となり、これらの知識を探究させるプロセスとして授業過程は組織される。しかしながら、本授業では、特に米騒動と鈴木商店に比重を置き、他の2事例は、比較対象として簡潔に扱うという方略をとる。それは、消極的には附属学校での投げ入りの実験授業に多くの時間を割くことが困難であるという物理的な事情によるが、積極的な理由としては、学習心理として鈴木商店と米騒動の関連性という中学生にとっては新奇な現象を重点的に扱った方が、彼らの知的好奇心を喚起できるのではないかと判断したからである。いわば授業の構図をまんべんのない平坦なものとするのではなく、遠近法のように興味深い対象に焦点化するような内容構成を計り

たい。

付言するならば、もし、これらの教育内容全体を、歴史を恣意的に切り取ったり、教師の立場からの都合の良い問題設定や解釈、仮説、理論が形成され、利用されているということを生徒自身に自覚させた上で、彼らの独自の思考・判断を導いていこうとするならば、唯名論的な知識観に基づく歴史構成主義的な第2の立場の歴史教育になろう。しかし、本授業は、教師の問題意識と仮説的回答は、生徒にも共通で必要な普遍的なものであるのではないかという前提に立脚しており、生徒に言語論的転回に到達するような問題意識は喚起していないので、あくまで実在論的知識論に基づく授業構成の立場をとっていると言えよう。とは言え、3種の一般的・説明的知識は、仮説や暫定的なものの方・考え方であり、それをどう捉えるかは、生徒1人1人に委ねられるという開かれた終結のあり方をめざし、生徒に自由に意見や感想を述べさせていく。

(4) 授業における指導方法

本授業は、大きく3つの段階で展開され、それぞれの段階で以下のような指導方法の工夫を行う。第一段階においては、生徒に既知の歴史事項と、未知の新奇な歴史事象のつきあわせを行わせ、興味・関心を喚起するとともに問題意識を醸成する。既知の歴史事項とは、三井・三菱などの財閥の存在、それらを含む経済界が第一次世界大戦で空前の好況となったこと、インフレ基調の中で、貧富の差が拡大するとともに、陸軍のシベリア出兵を1つの原因とした米価高騰と米騒動が起きたことなどである。本授業は3年生の3学期末に投げ入れ授業として実施しているために、これらの歴史事項は既習事項となっている。従って、もし、未履修の状況であれば、もう1時間、それらの学習を行ってから本授業に入ることが望ましい。未知の新奇な歴史事象とは、幻の大財閥、鈴木商店に関することである。最盛期には、三井・三菱にひけをとらない営業成績であったこと、現代にも神戸製鋼などその系譜を引く企業が多数存在すること、それにもかかわらず三井・三菱と異なり金融恐慌で本社が倒産したこと、その前史として米騒動で本社が群衆に襲われ、焼き討ちにあったことなどを具体的に説明する。そして、なぜ、米騒動において、三井・三菱ではなく、鈴木商店が襲撃対象とされたのだろうか、という本授業の問いを導く。

第二段階においては、米騒動の一般的な原因論、米の仲買人や米問屋、米穀商店などによる米の買い占めや投機などを再確認し、それらの責任が鈴木商店にあてはまるかどうかを考察させる。この考察においては、附属新潟中学校で研究されている思考スキルの育成のうち、仮定スキルと類推スキルを用いさせる³⁾。仮定スキルとは、「ある状況を想定することで、事象をより明確にとらえるスキル」と定義され、「もし～なら」「～だとしたら」というような考え方を取り入れる方法である。具体的には、「1918年には確かに神戸の鈴木商店の倉庫には20万トン以上の米があったらしいけれども、もし、何らかの事情があったとしたら、鈴木商店は自らの儲けのための買い占めをしていたのではないということになる。そこで、その事情を想像し、鈴木商店を弁護しなさい。」という課題を与える。ヒントとして、「鈴木商店は国際貿易に従事していた。」「鈴木商店は政府（内務大臣後藤新平）と関係があった。」「政府は米価を下げて、米騒動を鎮めようとしていた。」「一般に供給量を増やすと、（需要が増えないならば）物価は下がる、もしくは物価上昇は鈍化する」などの事実的知識を提示する。これらのことから、「もし、鈴木商店が海外からの輸入米を国内市場に放出し、米価を下げようとする政策に協力していたとするならば、鈴木商店は米の買い占めでもうけようとしていたという非難はあたらない。」という仮説的な推論を導く。そして、事実、鈴木商店は政府の依頼により朝鮮米を安価な手数料で輸入し、国内市場に放出していたという事実的知識を提示し、仮説の検証を行う。

類推スキルとは、「複数の事象において、それぞれの似ているところを探し、それを他の事物や事象に当てはめて考えてみるスキル」であり、「AはBだったので、A'もB'だろう。」というような考え方を取り入れる方法である。具体的には、「東日本大震災で、スーパーやコンビニから食料や水がなくなったのは、人々がそれらの生活必需品がなくなことを恐れて我先に買い占めたからであった。このことから、米騒動においても、米価が急騰したり、店頭から米がなくなことを恐れた消費者が我先に買い占めようとしたということではなかったのかどうか気になる」という仮説を導く。そして、この仮説を、当時の米小売店主であった上田氏の話「お客さんが群集心理でよけいに買うから、よけい足らんようになる。無いようになる

んで、常識のある人まで買い占めをやったな。」という証言などで検証する。では、なぜ、米騒動において鈴木商店が攻撃されたのかという点について、大阪朝日新聞などメディアによる攻撃があったこと、その政治的背景について解説を加える。

第三段階では、第二段階での学習内容を、さらに広げて応用していく。すなわち、米騒動において、群集心理による買い占めが米価高騰の1つの原因であったかもしれないこと、にもかかわらず責任を鈴木商店に押しつけることで不満を解消しようとしたこと、それにはマスメディアの影響が介在していたことを、狂乱物価と東日本大震災における現象と比較させ、後2者においても類似の現象が見られるのではないかと、という推論を行う。この推論を検証するための、人々の買い占め行動や、マスコミが攻撃した対象についての知識を提示していく。その上で、生徒たちに、授業で扱われたことに関する感想や自分たちの意見を自由に書いてもらう。以上の目標、内容構成、指導方法を学習指導案の形で示すと以下ようになる。なお、実際の授業では、さらに視覚的教材としてパワーポイント教材を開発・使用したが、本稿では指数の関係で割愛する。

Ⅲ. 中学校社会科歴史的分野学習指導略案

1. 主題 「歴史で社会のあり方を考える－米騒動と大衆心理の研究－」
2. 授業者 児玉 康弘（新潟大学教育学部）
3. 対象と日時 附属新潟中学校 3年1組40名対象 2012（平成24）年2月27日2限
附属新潟中学校 3年2組40名対象 2012（平成24）年2月28日2限
附属新潟中学校 3年3組40名対象 2012（平成24）年2月29日2限

4. 授業の目標

社会的危機状況における次のような大衆心理の一般的傾向と問題点について考えさせる。

○社会不安が高まると、人々は買い占めなど過剰な自己防衛に走る傾向があるのではないかと。

- ・1918年の米騒動時に、人々は米の買い占めを行った。
- ・1973年の石油危機とその後狂乱物価時に、人々はトイレットペーパーまで買い占めようとする「群集雪崩」現象を起こした。
- ・2011年の東日本大震災・原発事故に際し、人々は水や保存食品を買い占めようとした。




○不安や不満のはけ口を、特定の対象に求めて過剰に攻撃し、不安を緩和・忘却しようとする傾向があるのではないかと。

- ・1918年の米騒動時に、人々は米価を下げる試みを政府に依頼されていた鈴木商店を攻撃した。
- ・1973年の石油危機と狂乱物価の際に、人々は田中角栄首相を批判した。
- ・2011年の東日本大震災・原発事故に際し、人々は政府・東京電力の対応を批判した。

○社会不安が高まると、人々の心理はマスメディアの影響を受けやすくなるのではないかと。

- ・1918年の米騒動では、人々は鈴木商店を攻撃した大阪朝日新聞の影響を受けた。
- ・1973年の石油危機と狂乱物価の際に、人々は文藝春秋誌の田中角栄批判の影響を受けた。
- ・2011年の東日本大震災・原発事故に際し、人々はマスメディアの報道の影響を受けた。

5. 授業の展開

問 い	知 識（仮説を含む）
<p><導入>（第一段階）</p> <p>○三つのシンボルマークは、何を表しているのか？</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">    </div>	<p>○左から順に三井財閥、三菱財閥、鈴木商店を示している。（前2者について、教科書180頁で確認）</p>

<p><展開1> <u>鈴木商店に関する事実的認識</u></p> <p>○鈴木商店とは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代との関係は？ ・どういう成り立ち？ ・なぜ、なくなったの？ ・どれくらいすごかったの？ ・なぜ、急成長したの？ <p>○総力戦って何？</p>	<p>○三井・三菱と並ぶ戦前の大財閥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その事業は、日商岩井（双日）、神戸製鋼、帝人など多数の大企業に継承されている。 ・大阪の砂糖商、辰巳屋から鈴木岩治郎が明治10年に独立し、岩治郎死後、妻である店主鈴木よねの下で、番頭の子直吉が第一次大戦前後に急成長させる。 ・戦後恐慌と関東大震災で経営不振になり、金融恐慌で倒産したので。 ・三井、三菱財閥よりも年商は大きかった。最盛期には、スエズ運河を通る船の1割は鈴木関係だったと言われている、など。 ・砂糖、樟脳、薄荷（鈴木の子白）の輸入で土台を築いた。 <p>○総力戦である第一次世界大戦に際して、主戦場となったヨーロッパ向けの世界貿易で急成長した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民経済の全てを賭けた消耗戦に耐えるための戦い。あらゆる物資の調達を図られるために、鈴木商店は世界中で手当たり次第に物資を購入し、船積みして注文に応じた。イギリス政府からは直接注文を受け、フランス政府からも感謝されて鈴木よねはレジオン・ドヌール勲章を授かった。
<p>展開部（第二段階）</p> <p><展開2> <u>米騒動で襲われた鈴木商店</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・米騒動とは何だったか？ ・なぜ、鈴木商店が襲われたのか？ ・本当に、鈴木商店は米を買い占めていたのか？ <p>○仮定スキルを使って、鈴木商店を弁護しなさい。（もし、あることをしようとしていたら）</p> <p>ヒント</p> <ol style="list-style-type: none"> ①鈴木商店は国際的貿易会社でした。 ②金子直吉は、内務大臣後藤新平と親しい関係でした。 ③鈴木商店は、政府からあることを頼まれていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1918年のシベリア出兵時に米価が急騰し、これを不満として富山県から始まった大衆暴動。教科書181頁で確認。 ・米を買い占めて米価をつり上げていると思われたから。 ・1918年8月に、倉庫には20万トン以上の米があったのは事実。 <p>○鈴木商店は、国内の米価を下げるために朝鮮から20万トンの米を輸入し、国内で安く売る仕事を政府から頼まれていた。手数料は1石あたり37銭5厘というわずかなものであった。朝鮮米の輸入のために船舶を使うことは、他の儲かる貿易に支障があって鈴木にとって損な仕事であるが、政府から頼まれて企業の社会的責任として引き受けたらしい。</p>
<p><展開3> <u>米価急騰・不足の陰の原因</u></p> <p>○米価急騰の原因は一般的には、シベリア出兵に起因するインフレ傾向と、米商人たちの買い占めによると言われています。しかし、大きな原因があったようです。</p> <p>その原因を、類推スキルを使って推論しなさい。類推の材料は、みなさん方も体験した東日本大震災直後の身近なお店の様子です。</p>	<p>○米が無くなることを恐れた消費者が、買い占めに走ったために、全国で需要増となり、供給が追いつかなくなったという面もあると言われる。また、農民は米の値上がりを見越して、土蔵などに隠置したので供給も収縮したと言われる。この需要と供給の極端なアンバランスも、米価急騰の原因ではないかと言われている。政府は10石（米俵25表）以上所有しているものを取り締まろうとした。</p>

<p>＜展開4＞鈴木商店が攻撃された原因</p> <p>○なぜ、鈴木商店は大衆に憎まれて、攻撃されたのだろうか？</p>	<p>○成金の風刺画から推測すると、当時の人々は急成長した鈴木商店を妬んでいたのではないかと推測される。米価が急騰し、生活が苦しくなった不満のはけ口をどこかに求めているのではないかと推測される。これに火をつけたのが、大阪朝日新聞の執拗な鈴木商店批判キャンペーンであったと言われている。朝日新聞が鈴木商店を批判したのは、鈴木商店が藩閥政府と親しい関係にあることを嫌い、政党政治を求めているからだと言われている。</p>
<p>＜終結＞（第三段階）大衆心理の一般的傾向について</p> <p>○米騒動と鈴木商店の学習から、見えてくるものは何だろうか？</p> <p>○大衆心理に関する仮説について、感じたこと、考えたことを自由に書いて下さい。</p>	<p>○次のような大衆心理の一般的傾向が仮説として見えてくるのではないかと推測される。</p> <p>①大衆は、社会不安が高まると、買い占めなど自己防衛に走る傾向にあるのではないかと推測される。</p> <p>類例→1973年の石油危機と狂乱物価時の買い占め騒ぎ、この時のトイレットペーパー・パニックを社会心理学では「群集雪崩」と表現している。</p> <p>→2011年東日本大震災と原発事故に際しての水や食料の買いだめ。</p> <p>②大衆は、不安や不満のはけ口として、特定の対象を攻撃したがるのではないかと推測される。</p> <p>類例→1973年の石油危機と狂乱物価の際の田中角栄批判。</p> <p>→2011年東日本大震災と原発事故に際しての政府・東電批判など。</p> <p>③大衆は、社会不安が高まるとマスコミの影響を受けやすくなるのではないかと推測される。</p> <p>類例→田中角栄に対する予断と偏見（目白御殿の高額の錦鯉は、賄賂や土地転がしの儲けで買ったものと思われがちだが、実は山古志村の産業をアピールするために、中山トンネル建設のお礼にプレゼントされたものを飼っていた。）</p> <p>→東日本大震災、原発事故におけるマスコミ報道の影響、風評被害のことなど。</p>

IV. 授業の実践

指導案に基づく実験授業は2012年2月27日から29日にかけて、新潟大学教育学部附属新潟中学校3年生を対象に実施した。冒頭の三井、三菱、鈴木屋号についてのクイズから、狙い通りに未知なる大商社に関する知的好奇心を喚起することができた。世界一ともいわれた大商社の本店が、米騒動で焼き討ちに会い、当主の鈴木よね一族が命からがら逃げなくてはならなかったことに驚きを隠せない様子がうかがわれた。

展開部での「仮定スキルを用いて鈴木商店を弁護せよ」という課題に対しては、最初は戸惑いを見せていたが、徐々にヒントや手がかりを示し、グループで話し合いをさせる中で、予想をすることができるように

なっていくた。「需要と供給の関係から、どうすれば米価が下がると政府は考えたのか」、「そのために政府が国際貿易に従事していた鈴木商店に依頼するとしたらどのようなことが考えられるか」などのかみ砕いた問いが有効であった。「第一次大戦時のインフレ傾向やシベリア出兵などの教科書の説明の他に、米価高騰・米不足の原因があったとしたら、何が考えられるか、東日本大震災直後のスーパーやコンビニの状況から類推スキルを用いて考えなさい」という課題に関しては、自分たちの体験から、人々の買い占めや買いだめがあったのではないかという予想を比較的スムーズに引き出すことができた。

さらに、類似の現象として1973年の狂乱物価時におけるトイレットペーパー・パニックを写した写真教材を提示すると、生徒たちはさらに興味・関心を高めている様子を見せた。終結部分の3つの現象の一般化という授業のねらいを、多くの生徒はよく理解してくれたようで、感想文には個別の歴史事象にとらわれず、群集心理やマスコミの役割・影響を論じたものが多く見られる。

なお、3回目の3年3組での実践では、前2回の経験と反省・改善によって比較的スムーズに授業が進んだために、終結部分において、民主政治において普遍的な課題となるポピュリズムの問題を、古代ギリシアの衆愚政治を例に紹介し、それをソクラテスが批判したことを教えたために、それらについて書かれた感想文も見られる。

V. 生徒感想文の分析視点と事例

(1) 分析視点

本授業においては、3層の事実に知識構造（個別的・記述的知識、個別的・説明的知識、一般的・説明的知識）の成長を主たる教育目標・内容としており、授業の内部において、生徒の合理的意思決定力や合意形成能力、社会参加への態度等の直接的な市民的資質育成を図ってはいない。では、結果として、本授業は生徒たちの市民的資質の育成に働きかけた効果は全くなかったのでしょうか。さわめて限定的ではあり、永続的なものとは決して言えないけれども、生徒の感想文をみると、次のような視点から市民的資質の育成に対する間接的な働きかけへの若干の応答が見られるように思われる。

第1は、事実認識のレベルにおいて、学習した新しい知識を自らの社会認識の一部として取り入れ、社会を観る目として利用したり、社会的判断に活用しようとするような態度である。換言すればその態度とは、社会科を暗記教科として捉えるのではなく、自分自身の社会的なものの見方や考え方を成長させるための学習だという意識の芽生えである。

第2は、価値判断のレベルにおいて、授業で学んだことを、自らの考え方や行動の反省の材料として利用しようとする態度である。この場合、自分たちの消費行動や、マスコミの役割や影響力などについて見つめ直そうとする態度を示しているかどうかということである。

第3は、同じく価値判断のレベルにおいて、学んだことを社会集団のあり方の批判や反省の材料として検討しようとするような態度である。自分の所属する集団のあり方を、学習内容を参考にして客観的に批判し、よりよいあり方を考えようとするような態度である。まとめると、①自らの社会認識を高めようとしているか、②自らの考えや行為を反省的に捉え直そうとしているか、③自らの社会集団のあり方を改善しようとしているか、ここでは、この3つの視点を市民的資質の成長の指標として、それぞれの視点について、その端緒が見られる事例を、以下に紹介していきたい。

(2) 各態度の事例

① 事実認識の活用

授業で学んだ内容を自らの社会認識形成に活用した事例として、歴史学習を経済や社会面を含めた総合的社会認識形成の場としてとらえる契機を示した次のような感想文が見られた。

「今までは、公民と歴史は分かれていると思っていたけれど、授業を通して、2つのことをつなげて考えると、新たな考えが生まれることが分かりました。米騒動は、お金持ちの人のせいで起こったことだと思っていたけれど、そうとばかりは言えず、メディアや国民にも原因があることを知りました。社会

の授業から心理学を学べておもしろかったです。」

社会科を分野を超えた総合的社会認識形成の場として捉えているという意味で、第1の指標に合致する事例と言えるのではなかろうか。また、本授業で扱ったような歴史を人々の生活や心理など、ある観点から分析的に捉えることの面白さを再認識し、今後の学習に生かしたいとする次のような感想文もある。

「常に、歴史を大きく動かすのは人間の心理なんだ、ということを感じた。東日本大震災でも、水や食べ物が出店から消え、ニュースにもなったので、身近なことだと思う。これからも、「群集心理」という観点から歴史を学習していこうと思った。他に、人間の心理に大きな影響を受けた人物や企業、出来事などを調べてみたい。もともと、歴史はその背景にいる人々の生活を考えることでおもしろくなると思っていたので、更に世界が広がって良かった。授業おもしろかったです。ありがとうございます。」

また、学んだ知識を、現代の経済的・政治的動向に関連づけて考察しようとしているものも見られた。

「今の内閣批判の問題にもおきかえられると思いました。今は不景気であって、国民は大きな不安を抱えています。この不安をみんなで共有し、一部を批判することで大衆の中でまとまりをもてるから、マスコミなどを中心に内閣批判が進んでいますが、これをもう一度見直すべきだと思います。」

② 価値判断や行動に関する個人的反省

個人的な価値判断や、家族を含めた消費行動の反省について書かれた感想文は数多く、例えば以下のものがある。

「日本人の心理というのは、いつの時代も同じなんだと学びました。私たち自身も、同じような経験が何回もありました。「これをいくつも買っても何も意味はないだろう」という物でさえも、自分の周りの人が買っていると、「自分も買わなくちゃ」と思ってしまいました。私は、社会不安の時でも、マスコミや周りの行動を過信せずに、ちゃんと考えて行動するのが大切だと考えました。」

より具体的に東日本大震災直後のことを思い出して、学習内容と比較し、自分たちの心情や行動と重ね合わせて考えているものとしては、以下のようなものがある。

「実際に私も東日本大震災の時、買いだめをしないといけないと思って、家族でスーパーのレジに並んだ覚えがある。自然災害や不景気があったとき、人は自分のことだけを考えて行動してしまうのだな、と思った。マスコミの言うことも全部信じたし、チェーンメールで回ってきたガセネタも信じた。でもそれは私だけじゃなくて、日本中がそうだったろう。一人一人がしっかりと状況を見て、正しい行動をとることが大切だと思う。授業、わかりやすかったです！3年間、ありがとうございます。」

ここで、生徒が「3年間」と言っているのは、筆者が附属新潟中学校で3年間校長をつとめたことによる。奇しくも、彼らの入学時に着任し、卒業時に離任することになった。さらに、家族の冷静な対応を再評価する感想も見られた。

「こういうような歴史的事実を調べると、人間の行動・心理の習性まで分かってしまうのだなと思いました。私も、東日本大震災が起こって店に商品がなくなったとき、とても不安になり、母親に買いだめを頼んだことがありましたが、そういう自分たちの行動で、自らの首を締めていたことに気づき、なるほどなと思いました。母は、そのとき、買いだめをしなかったので、私も今日学んだことを生かして、常識ある人になりたいと思いました。」

③ 社会集団のあり方の批判・反省

学習内容を、自分たちの属する集団や、社会のあり方の批判や反省に繋げようとしている感想文としては、以下のようなものがある。

「社会不安になると自己防衛に走って、余計に社会不安が進む、というのは、学校の中でもよくあることだと思った。例えば、自分の学校は荒れている、と思うと、少し気に入らないことを大きく取り上げて、それが、いじめとかにつながり、みんな自分がいじめられたくないから注意しないし、はけ口として、いじめが進み、やっぱり荒れているんだな、と思い込むみたいなのがよくあると思います。」

学校やクラスといった身近な社会集団の集合心理とその作用について、具体的に比較・反省している様子を読み取れる。より一般化し、日本人全体の傾向について考えているものとしては、以下のようなものがある。

「今の日本人の考え方と、昔の人の考え方が似ていて、考えることが一緒だなと思いました。いつもテレビを見て思いますが、日本人はマスコミの一方的な意見にまどわされている気がしてなりません。自分たちの視点を四方八方にめぐらせ、自由自在に思想をし、自分なりの情報を得るべきだと思います。」

また、アメリカ人の国民性との比較から、日本人の国民性を反省的にとらえようとした次のような感想文もある。

「「日本人」は周囲に馴染んだことを良しとする考え方があると思います。そのため余計に大衆心理が強い民族なのではないでしょうか。個人の考えがしっかりしたアメリカ人だったら米騒動はなかったのではないのでしょうか。また、メディアが体制を批判するのは、今も昔も変わらないと思いました。これも民族論になりますが、日本人は受け身の姿勢が強いので、メディアの情報を受け取り信じ込むことが多々あるのではないのでしょうか。そんな大衆心理の強い日本人の一人として、自分の意見をしっかりと持ちたいです。3年間ありがとうございました。」

V. おわりに

本研究と実験授業に協力をいただいた附属新潟中学校第3学年の諸君と教職員一同に、改めて感謝申し上げたい。特に2月29日の3年3組での最後の授業が終わった後、1組、2組の諸君を含めて3年生が全員集合し、各クラス代表が一言ずつ筆者に感謝の言葉を述べてくれたことは、たいへん嬉しい驚きであった。彼らがそのような行動をすることのできた原因は、「自主独立・協同」という生徒会スローガンのもと学校教育全体の中で育成された市民式資質の表れと解される。本実験授業のようなささやかな社会科歴史教育の取り組みも、そのような資質育成に何らかの形で寄与できていたならば幸いである。以下、参考までに、生徒全員の感想文を列記しておきたい。

参考資料 授業「歴史で社会を考える―米騒動と大衆心理の研究―」生徒感想文

○3年1組

- ・大衆の行動が経済や人の人生を大きく変えているんだと思いました。鈴木商店のように、国民をたすけようとした企業が、たすけようとした大衆に焼き討ちをされてしまうなどのことがあるということを知り、事情をよく知り、冷静な判断で行動することが大切だと感じました。
- ・鈴木商店はかわいそうだと思ったが、おそらく自分がその時の人であつたら、鈴木商店を憎んでいたと思う。なので、自分は世間に流されてしまう方なのだった。今回の米騒動に限らず、何でも世間に流されていると、逆に自分たちにとって不利益なことにもなりかねないと思った。なので、これからは何でも

- マスコミや世間の流れをうのみにせずに、自分で詳しく調べることが大切だと思った。
- ・大衆心理というのは、一人一人の影響力が小さくても、大勢が集まれば、大きな影響力となってしまうので怖いと感じました。それを防ぐためには、自分で確かな目をもって、雑視や新聞をうのみにするのではなく、「それって本当なの？」と判断して、周りに流されないようにしないといけない、と考えました。
 - ・社会不安になると自己防衛に走って、余計に社会不安が進む、というのは、学校の中でもよくあることだと思った。例えば、自分の学校は荒れている、と思うと、少し気に入らないことを大きく取り上げて、それが、いじめとかにつながり、みんな自分がいじめられたくないから注意しないし、はけ口として、いじめが進み、やっぱり荒れているんだな、と思い込むみたいなのがよくあると思います。
 - ・私は、前によくニュースになった「騒音おばさん」の人物も、大衆心理によった被害を受けていたということを知りました。マスコミが私たちにおよぼす影響力の恐ろしさを実感しました。なかなか集団の中にいると、流れてくる情報が本当に正しいものなのかを判断しにくいので、私も気づかないうちに大衆心理で誰かを傷つけているのかもしれないと思い、少し背筋がゾッとしました。
 - ・私は、周囲に流されやすい人間なので、もしこの当時、私がいたなら、この大衆と同じことをしているのかなーと思いました。歴史を深くほりさげていくと、人間の心理まで分かるなんて知りませんでした。今まであまり好きではなかった社会が好きになれた気がします。いつの時代も、人間は変わらないのだと思いました。
 - ・大衆心理のはたらきで、こうもあっさりと米騒動や金融恐慌のように国が荒れてしまうとは思っていませんでした。一つの報道でも、国民をいたずらに刺激するようなものが出てくると、手に負えなくなるのかと思った。そういうことを考えると、昔から現代まで、マスコミの持つ世論・大衆心理へはたらきかける力は無視できるようなものではないと思った。
 - ・こういうような歴史的事実を調べると、人間の行動・心理の習性まで分かってしまうのだなと思いました。私も、東日本大震災が起こって店に商品がなくなったとき、とても不安になり、母親に買いだめを頼んだことがありましたが、そういう自分たちの行動で、自らの首を締めていたことに気づき、なるほどなと思いました。母は、そのとき、買いだめをしなかったので、私も今日学んだことを生かして、常識ある人になりたいと思いました。
 - ・大衆心理によって、石油危機でトイレトペーパーの買い占めが起こったり、東日本大震災で水などの買い占めが起こったり、マスコミなどでの報道のあらわしかたもあって、人々が動いてしまうことがある。マスコミはとても重要な役割を果たしているのだと思う。少しでも悪く書くと、悪くないのに悪いと攻められる会社だったり、「マスクをつけないと・・・」のようなおどしを書いたら買い占めが起こったりするので、気をつけなければいけないのだなと思った。
 - ・新聞記事やテレビなどの影響を受けすぎると、かえって事態が悪化している気がするので、全員が全員のことを考え、買い占めをしないで節約などをしていくことが大切だなと感じました。メディア・リテラシーということは、米騒動や石油危機などのような大きな出来事があったときには必要なんだと、今日の授業を通して感じました。
 - ・大衆心理の一般的傾向一つで、大商社もあつという間につぶれてしまうものなのだと感じた。買い占めていた理由も、国民に安く売るためだったのに、誤解され反感をかってしまい、報われないなと思った。今、トヨタが自動車業界で栄えている。しかし、何らかの事件が起きて、大衆心理が変われば、あつという間につぶれてしまうのかなと思った。ありがとうございました。
 - ・実際に私たちも東日本大震災の時に品不足を体験しているので、この授業を通して、改めて大衆心理が広まる早さ、恐ろしさを知りました。
 - ・政府のことや、遠く離れた場所での出来事は、自分との距離がありすぎて、パソコン・テレビ、雑誌等のマスメディアでしか、知ることはできませんが、実際に調べてみると、報道とは違う事実が出てくる可能性がある、あまり、信用性がない、と感じました。これからはマスメディアの報道にのみ左右されないようにしていきたいです。
 - ・昔の大衆心理は、今とあまり変わらないんだなと思いました。国民の買い占めや、特定の対象への攻撃を

防ぐためには、正確な情報を伝えることがとても大切なんだなと思いました。そう考えると、マスメディアがもつ社会への影響力はとても大きいと感じました。

- ・日本人は、自分の意見をあまり言わないわりに、正しくても正しくなくても、人数の多い方に行きがちで、それが時に米騒動のような事件を起こしてしまったのではないかと思います。「安全」と感じてしまうのは、各分野での専門家などの意見がマスメディアなどで流れて、それを正しいときめつけて信じる人が多くいて、多くの人が信じるほど、その意見があえていくということだと思います。
- ・大衆心理は、様々な多くの人を巻き込んで、いろいろな問題を引き起こしてしまうんだなと感じました。「周りがやっているから」という理由だけで行動することは、今回の鈴木商店の焼き討ちのように、行き過ぎたことをしてしまう可能性があります。自分の考えをしっかりとって、自分が今何をすべきかをよく考えた上での行動が必要であると感じました。授業をしていただいてありがとうございました。
- ・良い行いをしている者が、たった一つのうわさだけでも大衆の間に広まり、米騒動で焼き討ちなどをされることが分かった。マスメディアの報道する情報、大衆間でのうわさは、正しいときもあるが、しんぴょう性に欠けることもあるので、そういうところを見きわめ、正確な情報を得ることで誤解もなくなるし、大衆の心理による暴動も起きなくなるのではないかな、と思った。
- ・今も昔の世の中と変わらないことが起きていたんだな、と思いました。でも、今は昔より世の中は進んでいるので、より柔軟に物事を解決できるように、自分勝手な行動はせずに社会に貢献していきたいと思いました。
- ・自分も、大衆の一員であることをしっかりと自覚して、マスメディアなどにいちいち踊らされないようにしたい。「人がやるから自分もやる」という思考は、危険な面をもっているのだから、自分自身でしっかりと考えた上で行動したい。
- ・みんな、自分が良ければいいと考えて買い占めを起こしたりしてるけど、結局、自分たちも苦しくなるし、社会のために貢献している人のことを批判したりしてるので、どうしようもないことだけど、人は複雑だなと思いました。
- ・今日の学習で、大衆心理とは、地震や何か災害があったり、景気が行きすぎた時に起こりやすいものであることがわかった。また、東日本大震災の影響により、お店の生活必需品が売り切れたりするということが起きているため、そのようなことを起こさないように、みんなが惑わされないようにするということが大切だと思った。
- ・実際に私も東日本大震災の時、買いだめをしないといけないと思って、家族でスーパーのレジに並んだ覚えがある。自然災害や不景気があったとき、人は自分のことだけを考えて行動してしまうのだな、と思った。マスコミの言うことも全部信じたし、チェーンメールで回ってきたガセネタも信じた。でもそれは私だけじゃなくて、日本中がそうだったろう。一人一人がしっかりと状況を見て、正しい行動をとることが大切だと思う。授業、わかりやすかったです！3年間、ありがとうございました。
- ・周りの皆と同調したりするのは楽だし、時としては良いこともあるだろうと思う。しかし、そのように同調をする時は、自分自身の考えをしっかりとっておかなければならないと感じた。同調する側も、同調するで責任というか自分の考え方をはっきりさせないで、あやふやであったからこそ鈴木商店のようなハメになったと思う。一つの見方にこだわらずに、メディアでもしっかりとした見方をして、ものごとについての考え方をしっかりとさせていかなければならないと思った。
- ・一つの情報に多くの人々が簡単に流されてしまうと、今回の授業で学習したように、物価が本当に上昇してしまったり、銀行が本当にお金が足りなくなってしまうことになりかねない。だから、マスメディアは慎重に多様な情報を流し、国民は情報の真偽を確かめてから動くことが大事だと思う。
- ・人から人へ伝わって、思い込んでしまうと大変だと思いました。私も、その時代にいたら、きっと大衆心理で米を買い占めていたと思います。民衆は自分の生活のためにも米を買い占めなきゃと必死だったのだと思います。でも、そういった状況だからこそ、冷静に考えて判断しなくてはいけないと思いました。
- ・昔も今も、大衆心理によって国内にいろいろな問題が起きている。特にマスメディアによる国民への影響はとても大きいものなので、こうした問題は、あまりマスメディアの情報に頼りすぎないということを国民一人一人が意識すれば、軽減されると思う。

- ・ マスコミや、周りの人の意見にまどわされず、自分で正しい情報かを見きわめて得ていくことが大切なんだと感じました。そして、自分自身の意見をしっかりとつことも大切なのではないかと考えました。

○3年2組

- ・ 米騒動や金融恐慌などの原因となる、大衆の思い込みや間違った情報を信じてしまうことは、さらなる間違いを連鎖して起こす原因として、大きな力を持っていると想った。大衆心理に惑わされないようにするためには、情報を全て信じず、周りに流されないようにすることが大切だと想った。
- ・ 人間の心理として、誰かが言っていたからとか、みんながやっているからなど他人に左右されやすい。本当に正しい事は何なのか考え、一方からの面のみではなく、たくさんの立場からものをみることで、大切なことが分かってくるのだと想った。
- ・ 群集心理の怖さがよく分かった。鈴木は国のためにいいことをしようと思っていたのに、それを悪い方向にとらえられたのは残念なことだと想う。安定した社会を保っていくためにも、国民一人一人が冷静に情報を判断し、行動することが大切だと分かった。
- ・ 社会不安の中でも、自分をしっかりとって冷静に客観的に物事や情勢を見て判断することを一人一人が気をつけて行動すれば良い社会になると思いました。一人一人の感情が社会をかたちづくるのだということも感じました。
- ・ よく、日本人は「みんなと同じ」事を好むという傾向があるが、この米騒動は、その典型的な例だと言えると思う。ある偏った情報だけを丸のみにしてしまう傾向は仕方のないことなのだろうか。これらのことをなくすための策や案を考えてみたいと思った。
- ・ 今の日本人の考え方と、昔の人の考え方が似ていて、考えることが一緒だなと思いました。いつもテレビを見てて思いますが、日本人はマスコミの一方的な意見にまどわされている気がしてなりません。自分たちの視点を四方八方にめぐらせ、自由自在に思想をし、自分なりの情報を得るべきだと思います。
- ・ 不安が大きくなると、人は誰かのせいにしたがるのだな、と思いました。もっと、物事を深く考えた上で、行動するべきだと思います。
- ・ 今まで、公民と歴史は分かれていると思っていたけれど、授業を通して、2つのことをつなげて考えると、新たな考えが生まれることが分かりました。米騒動は、お金持ちの人のせいで起こったことだと思っていたけれど、そうとばかりは言えず、メディアや国民にも原因があることを知りました。社会の授業から心理学を学べておもしろかったです。
- ・ 鈴木商店が政府に頼まれて、米を持っていたことを知っていても、焼き討ちにしてしまうなんて、ひどいと思った。東日本大震災でも、東電を悪者にしたりして、今も昔も変わらないと思った。
- ・ 消費者たちなど大衆は、1つの情報をすぐに信じて行動してしまうことがあると思いました。いろいろな情報から、自分でよく考えて国のためになるようなことをしていきたいと思います。
- ・ 社会不安が高まると3つの状態（自己防衛に走る傾向がある、特定の対象を攻撃する、マスコミの影響を受けやすい）になりやすいのではないか、ということが分かりました。一方的な情報しか手に入れずに、マスコミなどの報道をそのまま信じてしまうのは良くないことだと分かっていても、流れにさからわず、その一員になってしまうのが、とても残念に思います。この大衆心理には、日本人の行動の傾向も深く関係していると思いました。
- ・ 大衆心理って、不安がどんどん伝染するせいで、本当に悪いことを引き起こしてしまうから、怖いなあと思った。でも実際、みんなが買い占めしたら、私もしてしまうだろうし、誰かが不安がりはじめたら、みんなが不安がると思う。今は、マスコミもすごく発達しているから、余計に拍車がかかっているし、難しい問題だと思いました。
- ・ 歴史から人間の心理を読み取ることもできるのだと思い、面白かった。大衆心理は、人間は不安になると普段やらないような事をしてしまうということが分かった。これを防ぐには、政府やマスコミ等が、買い占めをしなくても大丈夫だということを国民に根拠をもって説明することが重要だと思う。外からの意見が無いと大衆心理は働いてしまうので、政府の信頼を高めることも大切だと思う。
- ・ 買い占めについては、一部の人が買い占めて、店から商品が少なくなると、他の人まで買ってしまうとい

う気持ちは理解できるといった。東日本大震災の時も実際おこったことだし、大衆心理の一般的傾向というのは今も昔も変わらないのだからと考えた。他に「はけ口を求める」などの事も、一部の人が言い出したら、少数の人が賛同して、だんだん人数が増えていって大きな意見になるのだと思う。これは、もっと小さな集団でもおこることだと思った。

- ・自己防衛をしているのに、自分のことを棚に上げ、さらに自分が上へ行くために、自分より上の者を攻撃するのはいけないと思った。相手の行動を勝手に間違ったとらえ方をし、悪者扱いにするのは、後で自分にも被害が及んでくると思う。これをなくすために、社会不安がおきないような社会をつくっていかれたらいいなと思った。
- ・日本人の心理というのは、いつの時代も同じなんだと学びました。私たち自身も、同じような経験が何回もありました。「これをいくつも買っても何も意味はないだろう」という物でさえも、自分の周りの人が買っていると、「自分も買わなくちゃ」と思ってしまいました。私は、社会不安の時でも、マスコミや周りの行動を過信せずに、ちゃんと考えて行動するのが大切だと考えました。
- ・大衆心理の原因は、思い込みが大半であると思いました。人間の不安になる心によって、誰かのせいにしたがることも納得しました。しかし、人の不安になる気持ちを抑えることは無理なことなので、大衆による動きを止めることは難しいと思います。また、マスコミの影響で大衆心理が動くことも分かりました。マスコミの報道の仕方を工夫すれば、大衆をいい方向に動かすことができるのではないかとも思いました。
- ・鈴木商店は、外国から米を多く輸入して、供給量を増やして値段を下げようとしていたのに、自分の利益だけを考えて行動していると国民に誤解されたのは残念なことだったと思いました。確かに大衆は、米騒動や石油危機の様子などを見ていても、自分の利益を最優先に考えていると思う。私もその状況にあったら、自分の利益を最優先にするだろうが、もっと譲り合う世の中にしていくべきだと思った。
- ・メディアなどの偏った見方だけでなく、全ての人が先を見通し、冷静に物事を考えれば、こんな事は起きなかったのかもしれないな、と思いました。それはすごく難しいことだと思うが、一人一人が周りのみんなのことを考えられるようになったら、きっとすごくすてきな社会になるのだと思います。
- ・何事も先入観だけで決めるのはよくないと思った。考え方によっては如何様にもなるのだなあ、と思った。歴史には、その時、時代の人間性が表れるから「歴史」がつくられるのだということがよく分かった。
- ・社会的な不安が大きくなると、みんな1つの側面しか見えなくなって、買い占めをしたり、誰かを批判したりするということが分かりました。私は、1つの面だけでなく、色々な面から判断して行動したいと思いました。
- ・自分はそう思ってなくても周りに流されてしまうと、誤解が起きたりしてしまうので大変だなと思いました。日本はただでさえ人に流されるので、こういう結果になったのだと思うけれど、他の国で同じことがあったらどうなるのか知りたいです。
- ・大衆心理がはたらくことによって、米騒動のような歴史的に大きな事件が起きるのは、おもしろいと思った。人の心理は不思議なものだと思った。
- ・時代が異なっても、類似の大衆心理が歴史に関係しているなら、歴史に学べることもあると思う。マスコミの意見に踊らされるのではなく、最終的に自分で判断できるようになりたいと思った。
- ・大衆心理により世論は大きく変わっていくので、もっとマスコミは多様な見方を与えるようにして、謝ったことなどを伝えないようにすべきだと思う。しかし、大衆心理を作り出すのはマスコミだけでなく、国民一人一人である。自分も国民の一人として情報の取捨選択などをしていきたい。

○3年3組

- ・今日扱った有名な社会問題は、政治の策がどうか、海外がどうか、というものではなく、私たちのような民衆の動きによって大きくなってしまったのだ、ということを改めて理解しました。一人一人が思っても、ただそれだけだけれど、皆が皆、同時に思えば、数が多いだけあって、凄い影響を与えるんだなあ、と分かりました。大衆心理については、人間の本能的なものだと思いました。本当にありがとうございます

いました。自分の将来に役立てたいです！

- ・社会が不況に陥ったり、悪い方向にいくことで、人々の心理はとても動揺して、何かにぶつけたくなったりするのだなと思いました。もし、米騒動などがなかったら、鈴木商店は倒産しなかったかもしれないし、歴史が変わっていたのかもしれないと思うと、すごいなと感じました。
- ・今の内閣批判の問題にもおきかえられると思いました。今は不景気であって、国民は大きな不安を抱えています。この不安をみんなで共有し、一部を批判することで大衆の中でまとまりをもてるから、マスコミなどを中心に内閣批判が進んでいますが、これをもう一度見直すべきだと思います。
- ・米騒動の話から、人々がどのような背景で動いたり、歴史がつくられたりすることが分かりました。先生の授業は、ヘーと思うことがたくさんあって、とてもおもしろかったです。あまり社会は好きじゃないんですが、これを期に興味を持ちました。たのしい授業をありがとうございました。
- ・大衆心理は、混乱に混乱を呼び、自分たちも大衆に合わせなきゃ、逆に困るので、とても怖いことだと思います。最後の紹介にあった、衆愚政治とポピュリズムの問題点にはとても同感しました。何かある度、国会はその責任を首相に押しつけてしまいます。これでは、きりが無いと思います。一人が長期間、首相をできないので、日本は進歩しません。
- ・今日は鈴木商店を通して、大衆心理の怖さを知りました。最後の田中角栄の写真でも、見方を変えると全然違うように見えました。また、メディアが思惑をもった報道をすると、それに影響を受けやすいこともわかりました。これからは、情報の受け入れ方に気をつけたいです。
- ・今日の授業では、人の心が移り変わりやすいことを改めて感じました。人の感情は、とても大切なものだけれど、時として危険なものになってしまうのだなと思いました。
- ・現代の社会でもあるように、私たちには「偏見の目」があるのだと思います。ソクラテスがずっと昔に気づいていた民主政治の危うさについては、やはりもう少し目を向けるべきだろうと感じました。偏見はよくないことですが、それとうまくつきあう必要があるのだと思います。
- ・米騒動は商人や問屋によって起こされていたと思ったが、国民の大衆心理によっても起こされた側面があることを知り、びっくりした。将来はそういうものに左右されないようにしようと思った。授業をありがとうございました。
- ・鈴木商店は、たしかに第一次大戦で、すごい商売をしていて、まわりの企業の人たちにうらみをつけたのかもしれないけど、焼き討ちにあうまでなるのかなと思いました。国民のちょっとした意見がだんだん大きくなって行って、新聞に嫌われてしまい、批判されたのはかわいそうな感じがしました。また、国民の力ってすごいなと思いました。なんでも鵜呑みにせず、きちんとした事実を知っていきたいと思いました。3年間、ありがとうございました。
- ・「大衆心理」は怖いものと思った。周りが騒ぐから自分もそれに乗ってしまい、メディアに出ていることに影響されてしまう。感情で国をゆるがすことは本当に怖いことだと思った。その時、教育は非常に大きな役割を持つと思う。今日、学んだように、学習したことを役立てて冷静な姿勢をつくることは大切だ。校長先生の授業は、本当に楽しかったです。私たちの後輩が校長先生の授業を受けることがないと思うと、とても残念です。私たちは高校に行って頑張ります。先生もどうか附属中学のことを忘れずお元気でいて下さい。
- ・教科書にないことで、過去にいろいろあったことを知って、おもしろいと思いました。実際は何でもないくらいのことなのに、一般市民の心理が積み重なって、とうとう政治や経済までも動かしてしまうまでになるということに驚きました。今後、またいつ震災などが起こるかもしれないので、その時は冷静に、自分たちのことを、一度客観的に見て判断していきたいです。
- ・「日本人」は周囲に馴染んだことを良しとする考え方があると思います。そのため余計に大衆心理が強い民族なのではないでしょうか。アメリカ人だったら米騒動はなかったのではないのでしょうか。また、メディアが体制を批判するのは、今も昔も変わらないと思いました。これも民族論になりますが、日本人は受け身の姿勢が強いので、メディアの情報を受け取り信じ込むことが多々あるのではないのでしょうか。そんな大衆心理の強い日本人の一人として、自分の意見をしっかり持ちたいです。3年間ありがとうございました。

- ・まわりに合わせてしまうのが大衆心理だと思いますが、人としてしょうがないことだということも分かりますが、自分の判断がどんな影響を他に与えるのかをしっかりと考えながら生活したいです。まわりに流されないようにしたいです。
- ・思い込みや、うわさは本当に怖いもので、自分だけ気をつけてもどうしようもないんだなと思いました。
- ・大衆心理は怖いものだなと思った。新聞のちょっとした記事やテレビでの発言が、国を左右するようなことにまでなっていて、それらをうのみにする前に別の観点からみたり、吟味することが大切だとよくわかりました。ありがとうございました。
- ・大衆心理が、大きな財閥を揺るがすほどの力になることに驚いた。なんでもかんでも他の物のせいにするのは良くて、なにに原因があるのかを、しっかりと見極めることが大切だなと思った。1つの物事に対して、1つの視点からだけ見るのではなく、様々な視点からみるのが大事だなと思った。
- ・大衆心理は、多くの人がやっているから自分もやるという、自分で考えずに流されてしまうという大変危険なものだなと思った。これからは、自分が他人に流されないで考えていきたいです。
- ・今日、学習して、集団心理は怖いのだなと思いました。だれかにあたらないと、気がすまない、だとかいう心理は、人間だれにもあると思いますが、それには限度があるのだ、ということも改めて感じました。これから、今日学習したことをふまえて判断するようにしていきたいです。校長先生、とてもたのしかったです。
- ・大衆心理を引き起こす民衆を批判したいが、それはできない。自分もその民衆の一人なのだから。確かに、鈴木商店を批判した新聞社にも問題はありますが、人間は自己を守ることを第一に考えてのことがあるので、仕方がない面もあると思う。
- ・大衆がマスコミなどに影響されるのは仕方がないことだと思いました。僕たちは、マスコミを通じて物を見るわけで、遠くにいと、そのことを知るにはマスコミしかありません。先生が最後に言われたように、民主政治の課題についても考えておかなければならないと思いました。
- ・常に、歴史を大きく動かすのは人間の心理なんだ、ということを感じた。東日本大震災でも、水や食べ物が店頭から消え、ニュースにもなったので、身近なことだと思う。これからは、「群集心理」という観点から歴史を学習していこうと思った。他に、人間の心理に大きな影響を受けた人物や企業、出来事などを調べてみたい。もともと、歴史はその背景にいる人々の生活を考えることでおもしろくなると思っていたので、更に世界が広がって良かった。授業おもしろかったです。ありがとうございました。
- ・一般的に言われていることと、違ったりすることがあると感じました。また、震災があったりして、世が不安になったりすると、民衆は1つの情報に左右されて、どんどん悪い方へ行くんだなと思いました。たくさんの情報を見聞きして、自分が正しいと思うことを、行っていきたいです。
- ・米騒動の際に、大衆の行動も米価高騰の原因だったことがわかった。今後も、石油危機や東日本大震災のような出来事があったとしても、大衆の一員として、勝手な判断で行動しないで、正しい行動を心がけていきたいと思う。民主主義の危険なところがよくわかった。
- ・だれかを集中してバッシングしたり、自分第一だという考えは、どちらも子どもじみていて、いい大人たちがそんなことをしていると思うと、我々が社会人になったときには、良い社会にしようと思いました。
- ・新聞の論議に民衆が動かされ、大きな波となり、大企業が襲われるというのは、とても不思議なことだと思いました。何か1つの考えに固執して、柔軟性を失った思考によって、他の見方ができないというのは、とても大きく、怖いものだな、と感じました。とても興味深かったです。
- ・私も「米が無くなるかもしれない」と言われたら、米を買ってしまうだろうし、「あの銀行が危ない」と言われたら、預金をおろしてしまうと思いました。大衆心理は、昔のことではなく、今起きてもおかしくないと思いました。また、1つの視点だけでなく、たくさんの視点から見ることの大切さも学びました。
- ・今だとネットなどで様々な情報が入るけれども、当時は新聞や雑誌しかなかったので、少しの情報が信じられてしまい、大きな影響を与えてしまったのではないかな。
- ・教科書だけでは昔の事を知ることはできないのだなあと感じました。政治は国民のその時の気持ちによって大きく変わるという事を知りました。

- ・多くの人が思っていると、まちがったことや、かんちがいまで広がってしまい、とても大変なことが起きることがあって大変だと思いました。私は、まわりの人の意見とかだけじゃなくて、ちゃんと考えて行動したいと思いました。
- ・国民のほとんどは、ニュースや新聞の情報をもとに意見を持っている。しかし、その情報をうのみにして、間違った反感をいただくことも多い。私たちは、情報を客観的に見ることが要求されていると思った。
- ・このような社会の実情を知っていれば、各時代や政治で、人々がどのような動きを見せるか読むことができるといった。今日の授業を通して、教科書にはない鈴木商店も、今につながっていることを知っておもしろいと思いました。
- ・普段の社会の授業では学べないような、歴史が現在にもつながるといってもおもしろい授業をしてくださって、ためになりました。これからどういう形でもいいので、いかしていきたいです。
- ・災害や戦争によって大衆が買い占めをすることは、政治にとって悪いことだと思いました。自分たちが物を買い占めたために、物価が上昇してしまったので、結局は自分たちに影響が出るということがよくわかりました。

【指導計画・教材作成のための参考文献】

- ・柱 芳男『幻の総合商社 鈴木商店』現代教養文庫，1989
- ・白石友治編『金子直吉伝』ゆまに書房，1998
- ・NHK取材班編『その時歴史が動いた』，KTC中央出版，2002
- ・同上，コミック版，集英社，2006
- ・城山三郎『鼠－鈴木商店焼き討ち事件－』文春文庫，1975
- ・玉岡かおる『お家さん』（上）（下）新潮社，2007
- ・井上清，渡部徹編『米騒動の研究』第一巻，有斐閣，1959年
- ・仲村哲郎『大正デモクラシーと米騒動』歴史春秋社，2002年
- ・井本三夫『水橋町（富山県）の米騒動』柏書房，2010年
- ・後藤新一『狂乱物価と米騒動』日経新書，1975年
- ・高橋亀吉『大正昭和財界変動史』（上）（中）（下）東洋経済，1954
- ・高橋亀吉・森垣淑『昭和金融恐慌史』講談社学芸文庫，1993
- ・中村隆英『昭和恐慌と経済政策』講談社学術文庫，1994
- ・大阪朝日新聞経済部編『昭和金融恐慌秘話』朝日文庫，1999
- ・佐高信『失言恐慌 ドキュメント銀行崩壊』角川文庫，2004
- ・片岡直温『大正昭和政治史の一断面』西川百子居文庫，1934
- ・北岡伸一『日本の近代5 政党から軍部へ』中央公論新社，1999
- ・日本経済新聞社『私の履歴書15』（高畑誠一）日本経済新聞社，1981
- ・株式会社神戸製鋼所『神戸製鋼70年』神戸製鋼所，1974
- ・「経済心理」研究記者会編『狂乱物価の秘密』ライフ社，1976年
- ・末永俊郎編『講座社会心理学2 集団行動』東京大学出版局，1978年
- ・ギュスターヴ・ル・ボン『群衆心理』講談社学術文庫，1993年
- ・講談社DVD BOOK『昭和ニッポン1億2千万人の映像 第19巻昭和48～49年・1973～1974石油ショック狂乱物価と巨人9連覇』講談社，2005年

【註】

- 1) 池野範男『現代民主主義社会の市民を育成する歴史カリキュラムの開発研究』平成10年～平成12年度科学研究費補助金研究成果報告書
- 2) 森分孝治『現代社会科授業理論』，明治図書，1983年
- 3) 新潟大学教育学部附属新潟中学校『この“思考スキル”で高める思考力・判断力・表現力』明治図書，2012年